



村づくりに大阪の大学生の視点を取り入れる 学生が岩手県普代村の地域活性化策を提言

追手門学院大学（大阪府茨木市：学長 坂井東洋男）は連携協定を結んでいる岩手県普代村の地域活性化に取り組んでおり、3月24日、本学地域創造学部の学生5名が普代村役場を訪れ村の職員や地域の人たちに活性化策の提言を行います。

追手門学院大学は2015年4月に普代村と連携協力に関する協定を結びました。この年より毎年数名の学生が普代村を訪れ、特産品のコンブ（昆布）の活用方法や若者を地域に呼び込む施策をテーマに聞き取り調査や現場の視察を続けています。例えばコンブについては、品質は良いものの知名度が低いためにブランド化につながっておらず、販路の拡大も難しいなどの課題も見えてきました。こうした課題を元に当日は提言を行います。

人口2,814人（2月末現在）の岩手県普代村は「普代村の奇跡」で知られ、住民の防災意識に加え整備された防潮堤や水門によって東日本大震災でも死者が出ませんでした。一方で地域の活性化は急務であり、関西の大学生の視点からの地域活性化策には熱い期待がかけられています。

報道関係の皆様には、学生たちによる地域活性化策の提言の様子や住民との交流について、ぜひ取材を検討いただきますようお願いいたします。

【ポイント】

- 大阪の大学生が若者の視点で岩手県普代村の活性化策を提言
- 調査を通じて大学生も課題設定力、企画力を身に付ける
- 3月24日は普代村役場において本学学生がプレゼンテーションを行う

【提言を行う報告会】

日時：2017年3月24日 13時30分から

会場：岩手県普代村役場（岩手県下閉伊郡普代村第9地割字銅屋13番地2）

発表者：追手門学院大学地域創造学部の学生5名、山本博史地域創造学部教授



普代村職員との交流の様子



本学学生の勉強会の様子



普代村での農作業体験の様子

この資料の配付先：岩手県政記者クラブ、大阪科学・大学記者クラブ、北摂記者クラブ等

【発行元】

追手門学院 広報課 TEL：072-641-9590 坂倉・谷ノ内